



利用者と話す相談員（左）

## 経営の悩みを気軽に相談

7月10日、可児ビジネスカフェが総合会館1階にオープンしました。中小企業や小規模事業者が経営の悩みを気軽に相談できる窓口で、経営コンサルタントや特定社会保険労務士、経営相談に精通したマネージャーなど相談員が対応します。

毎週月、水、金曜日の開催で、相談料は無料です。窓口を気軽に利用してもらい、地域や事業者が元気になっていくことが期待されます。

## 水の事故を防ごう

7月18日、広見小学校で6年生を対象にした水の安全教室が行われました。この教室は水難事故に遭う子どもを減らそうと、B&G財団が開催しているものです。

教室では講師から「1人で水辺に行かない」「ライフジャケットを着る」などの注意点を確認。水に入ったときに慌てないように着衣のまま泳ぎ、水面に体を浮かせる練習をしました。児童は泳ぎにくさを体験する中で、自分の命を自分で守るための心構えを学びました。



講師の補助で水面に体を浮かせる児童



講師のジェスチャーに興味津々の子どもたち

## 学んだ英語で世界ツアーへGO!

市内の小中学生が英語を通してコミュニケーション能力を養うサマースクールを、7月25日から28日にかけて春里と中恵土の両公民館で行いました。

プログラムの一つのワールドツアーは、各国出身の外国人講師が自国を紹介するものです。参加した子どもたちは国旗や通貨、食べ物といった日本との文化の違いに驚いたり、事前に考えておいた質問を投げかけたりするなど英語でのコミュニケーションを楽しみました。

## 地域に愛され、5周年

コミュニティFMラジオ局のFMららが7月24日で開局5周年を迎えました。記念イベントとして、23日から24時間番組を行い、パーソナリティーがリレー方式で番組を進行しました。

FMららは地域情報発信の拠点として、地域の特色ある情報や災害時には緊急情報などを発信しています。今後も地域に愛されるラジオ局として、活躍が期待されます。



スタジオでトークを繰り広げるパーソナリティー

## 岐阜医療科学大学と連携協定を締結

市と岐阜医療科学大学は子育てや健康などについて7月26日に連携協定を締結しました。協定では、子育て、保健・医療、地域・経済の活性化、大学教育の充実と人材育成、防災とまちの安全対策の5項目で協力していきます。また同大学は平成31年4月に名城大学都市情報学部があった虹ヶ丘に新キャンパスを開設する予定で、専門性を生かした活動や地域の活性化が期待されます。

締結式で富田市長は「子育ての分野をはじめ、さまざまな分野で指導をいただければありがたい」と述べ、間野忠明学長は「地域との連携を重視している。市民の役に立つ大学づくりを目指していく」と応えました。



間野学長（左）と富田市長



虹ヶ丘に新キャンパスを開設予定



航空写真でまちの様子について学ぶ児童

## 可児市ってどんなまちだろう?

7月4日、帷子小学校の3年生を対象に可児市のまちの様子について市職員が説明する出前授業を行いました。昭和45年と現在の可児市を航空写真で見比べてまちの移り変わりを学んだり、市内の自然や住宅地区、商業地区など可児市の地理の特徴を学んだりしました。講師からどんなまちになるといいか聞かれると、児童からは「イベントが多く、楽しいまちになってほしい」など多くの意見が出されました。

## 進学にお金はいくらかかる?

7月7日に今渡北小学校で外国籍児童の保護者を対象に、進学にかかる費用などを学ぶライフプラン講座が開催されました。将来に向かって頑張る児童が進学を諦めずに済むよう、保護者に長期的な生活設計を考えてもらおうと行われたものです。今回の講座では、奨学金の説明やお金を貯めるコツなどの話がありました。参加した女性は「今は貯金がないが、子どもたちのためにこれから貯金を頑張りたい」と話していました。



生活設計の大切さを学ぶ保護者たち